

ソシオニクス まとめ

引用:From Over The Sea様

([ホーム-From Over the Sea](#))

簡易診断

([ソシオニクス診断テスト-From Over the Sea](#))

はじめに

類型界隈の投稿ではmbtiとソシオニクスを分けるために、

・Mbti = 

・ソシオニクス = 

で表現するのが現在主流です

例えば、

 Teは「ソシオニクスにおける情報要素Te」

 Teは「mbtiにおける心的機能Te」

といった具合です

目次

①タイプ一覧 [p.4](#)

②基本用語 [p.8](#)

③情報要素・情報代謝 [p.9](#)

→・価値、非価値 ・自我～イドブロック ・次元 ・機能名 ・【サブタイプ】活性、不活性

④クアドラ [p.21](#)

⑤認知スタイル [p.25](#)

⑥ロマンススタイル [p.29](#)

⑦【サブタイプ】DCNH [p.30](#)

⑧各タイプ 関係性 [p.31](#)

①タイプ一覧(16タイプ)

- ILE(ENTp)
- SEI(ISFp)
- ESE(ESFj)
- LII(INTj)

- SLE(ESTp)
- IEI(INFp)
- EIIE(ENFj)
- LSI(ISTj)

- SEE(ESFp)
- ILI(INTp)
- LIE(ENTj)
- ESI(ISFj)

- IEE(ENFp)
- SLI(ISTp)
- LSE(ESTj)
- EII(INFj)

α(アルファ) クアドラ

β(ベータ) クアドラ

γ(ガンマ) クアドラ

Δ(デルタ) クアドラ

① タイプ一覧（表）

ILE _(Ne-ILE・Ti-ILE)		SEI _(Si-SEI・Fe-SEI)		ESE _(Fe-ESE・Si-ESE)		LII _(Ti-LII・Ne-LII)	
第1機能【主導】 Ne	第2機能【創造】 Ti	第1機能【主導】 Si	第2機能【創造】 Fe	第1機能【主導】 Fe	第2機能【創造】 Si	第1機能【主導】 Ti	第2機能【創造】 Ne
第4機能【脆弱】 Fi	第3機能【規範】 Se	第4機能【脆弱】 Te	第3機能【規範】 Ni	第4機能【脆弱】 Ni	第3機能【規範】 Te	第4機能【脆弱】 Se	第3機能【規範】 Fi
第6機能【勤員】 Fe	第5機能【暗示】 Si	第6機能【勤員】 Ti	第5機能【暗示】 Ne	第6機能【勤員】 Ne	第5機能【暗示】 Ti	第6機能【勤員】 Si	第5機能【暗示】 Fe
第7機能【無視】 Ni	第8機能【証明】 Te	第7機能【無視】 Se	第8機能【証明】 Fi	第7機能【無視】 Fi	第8機能【証明】 Se	第7機能【無視】 Te	第8機能【証明】 Ni
認知スタイル：因果的決定論的 ロマンススタイル：子供タイプ		認知スタイル：弁証法的アルゴリズム的 ロマンススタイル：保護者タイプ		認知スタイル：ヴァーティカル・シナジェティクス的 ロマンススタイル：保護者タイプ		認知スタイル：ホログラフィック・パノラマ的 ロマンススタイル：子供タイプ	

SLE _(Se-SLE・Ti-SLE)		IEI _(Ni-IEI・Fe-IEI)		EIE _(Fe-EIE・Ni-EIE)		LSI _(Ti-LSI・Se-LSI)	
第1機能【主導】	第2機能【創造】	第1機能【主導】	第2機能【創造】	第1機能【主導】	第2機能【創造】	第1機能【主導】	第2機能【創造】
Se	Ti	Ni	Fe	Fe	Ni	Ti	Se
Fi	Ne	Te	Si	Si	Te	Ne	Fi
Fe	Ni	Ti	Se	Se	Ti	Ni	Fe
Si	Te	Ne	Fi	Fi	Ne	Te	Si
認知スタイル：ホログラフィック・パノラマ的 ロマンススタイル：侵略者タイプ		認知スタイル：キュアティカル・ナッシュティクス的 ロマンススタイル：犠牲者タイプ		認知スタイル：弁証法的アルゴリズム的 ロマンススタイル：犠牲者タイプ		認知スタイル：因果的決定論的 ロマンススタイル：侵略者タイプ	

SEE(Se-SEE・Fi-SEE)		ILI(Ni-ILI・Te-ILI)		LIE(Te-LIE・Ni-LIE)		ESI(Fi-ESI・Se-ESI)	
第1機能【主導】	第2機能【創造】	第1機能【主導】	第2機能【創造】	第1機能【主導】	第2機能【創造】	第1機能【主導】	第2機能【創造】
Se	Fi	Ni	Te	Te	Ni	Fi	Se
第4機能【脆弱】	第3機能【規範】	第4機能【脆弱】	第3機能【規範】	第4機能【脆弱】	第3機能【規範】	第4機能【脆弱】	第3機能【規範】
Ti	Ne	Fe	Si	Si	Fe	Ne	Ti
第6機能【勤員】	第5機能【暗示】	第6機能【勤員】	第5機能【暗示】	第6機能【勤員】	第5機能【暗示】	第6機能【勤員】	第5機能【暗示】
Te	Ni	Fi	Se	Se	Fi	Ni	Te
第7機能【無視】	第8機能【証明】	第7機能【無視】	第8機能【証明】	第7機能【無視】	第8機能【証明】	第7機能【無視】	第8機能【証明】
Si	Fe	Ne	Ti	Ti	Ne	Fe	Si
認知スタイル：因果的決定論的 ロマンススタイル：侵略者タイプ	認知スタイル：弁証法的アルゴリズム的 ロマンススタイル：犠牲者タイプ	認知スタイル：ヴィオティカル・シナジエティクス的 ロマンススタイル：犠牲者タイプ	認知スタイル：ホログラフィック・パノラマ的 ロマンススタイル：侵略者タイプ				

IEE(Ne-IEE・Fi-IEE)		SLI(Si-SLI・Te-SLI)		LSE(Te-LSE・Si-LSE)		EII(Fi-EII・Ne-EII)	
第1機能【主導】 Ne	第2機能【創造】 Fi	第1機能【主導】 Si	第2機能【創造】 Te	第1機能【主導】 Te	第2機能【創造】 Si	第1機能【主導】 Fi	第2機能【創造】 Ne
第4機能【脆弱】 Ti	第3機能【規範】 Se	第4機能【脆弱】 Fe	第3機能【規範】 Ni	第4機能【脆弱】 Ni	第3機能【規範】 Fe	第4機能【脆弱】 Se	第3機能【規範】 Ti
第6機能【勤員】 Te	第5機能【暗示】 Si	第6機能【勤員】 Fi	第5機能【暗示】 Ne	第6機能【勤員】 Ne	第5機能【暗示】 Fi	第6機能【勤員】 Si	第5機能【暗示】 Te
第7機能【無視】 Ni	第8機能【証明】 Fe	第7機能【無視】 Se	第8機能【証明】 Ti	第7機能【無視】 Ti	第8機能【証明】 Se	第7機能【無視】 Fe	第8機能【証明】 Ni
認知スタイル：ホログラフィック・パノラマ的 ロマンスタイル：子供タイプ		認知スタイル：ワーキング・カルカル・シナジェティクス的 ロマンスタイル：保護者タイプ		認知スタイル：弁証法的アルゴリズム的 ロマンスタイル：保護者タイプ		認知スタイル：因果的決定論的 ロマンスタイル：子供タイプ	

①タイプ一覧(表記解説)

1、2文字目

- S(Sensory):感覚] 知覚要素
- I(Intuitive):直観]
- L(Logical):論理] 判断要素
- E(Ethical):倫理]

3文字目

- E(Extravert):外向
- I(Introvert):内向

アルファベットの順番(例:LSE)

L(Te)S(Si)E(外向)

- ・1番目と2番目は各タイプの主導(第一)と創造(第二)機能
- ・3番目は外向/内向
 - (・1番目に知覚要素(S/I)→非合理型)
 - (・1番目に判断要素(L/E)→合理型)

→[p.8「情報要素・情報代謝」を参照](#)

①タイプ一覧(mbtiとの相関性)

ソシオニクス

	ILI INTp	LII INTj	ILE ENTp	LIE ENTj	IEI INFp	EII INFj	IEE ENFp	EIE ENFj	SLI ISTp	LSI ISTj	SLE ESTp	LSE ESTj	SEI ISFp	ESI ISFj	SEE ESFp	ESE ESFj	total
mbti																	
INTP	306	41	35	24	1	2	0	1	28	0	0	0	1	0	0	0	439
INTJ	111	243	2	7	1	20	0	6	8	13	0	0	0	5	0	0	416
ENTP	48	0	211	0	1	0	0	39	0	0	66	0	0	0	18	0	383
ENTJ	5	3	9	58	0	1	0	26	0	8	5	0	0	0	0	0	115
INFP	45	10	11	0	359	115	24	24	20	0	0	0	66	0	0	3	677
INFJ	11	23	1	0	6	455	0	22	0	0	0	0	1	16	0	10	545
ENFP	0	0	81	1	125	0	359	304	0	0	1	0	3	0	102	27	1003
ENFJ	0	0	1	4	0	6	0	112	0	0	0	0	0	1	2	24	150
ISTP	22	1	0	0	0	0	0	0	63	6	4	0	0	0	1	0	97
ISTJ	15	56	0	2	0	13	0	1	109	288	0	36	0	102	0	1	623
ESTP	1	0	2	3	0	0	0	3	4	1	220	0	0	0	36	1	271
ESTJ	2	0	1	15	0	0	0	15	0	134	159	95	0	5	7	2	435
ISFP	0	1	0	0	5	5	0	4	32	0	0	0	47	0	2	10	106
ISFJ	0	0	0	0	1	90	0	3	20	4	0	2	19	204	0	39	382
ESFP	0	0	1	0	2	0	9	22	1	0	5	0	2	0	225	33	300
ESFJ	0	0	0	0	0	0	0	45	0	2	4	6	0	13	17	90	177
total	566	378	355	114	501	707	392	627	285	456	464	139	139	346	410	240	6119

source: http://danidin.ucoz.net/index/svjaz_socioniki_i_mbti/0-41

②基本用語

- クアドラ

16タイプを4グループ(α、β、γ、Δ)に分類

同じクアドラに属するメンバーは考え方や価値観が似ているため居心地が良く感じやすい

- 認知スタイル

小グループの一つ。

個々人が情報を処理し、問題を解決し、意思決定を行う際の特徴的な思考パターンから分類

- 口マンススタイル

小グループの一つ。恋愛やセクシャルな面における人ととの相互作用から分類

- 情報要素

mbtiの心理機能と同じ記号(Te,Ti,Fe,Fi,Se,Si,Ne,Ni)。意味合いは違う

(・価値、非価値 ・自我～イドブロック ・次元 ・機能名 ・【サブタイプ】活性、不活性)→p.○以降記載

- 情報代謝

タイプごとの情報要素の流れ

③情報要素・代謝(例:LSE)

	Te-LSE (不活性)	Si-LSE (活性・接触)
価値	第一機能：Te 4次元（高）	第二機能：Si 3次元（高）
非価値	第四機能：Ni 1次元（低）	第三機能：Fe 2次元（低）
価値	第六機能：Ne 2次元（低）	第五機能：Fi 1次元（低）
非価値	第七機能：Ti 3次元（高）	第八機能：Se 4次元（高）

自我：強い・意識的	第一機能：主導	第二機能：創造
超自我：弱い・意識的	第四機能：脆弱	第三機能：規範
超イド：弱い・無意識的	第六機能：動員	第五機能：暗示
イド：強い・無意識的	第七機能：無視	第八機能：証明

タイプごとに8つの情報要素が以上のように並べられる

各説明

- ・価値、非価値→[p.12](#)
- ・自我、超自我、超イド、イドブロック→[p.13](#)
- ・次元→[p.15](#)
- ・機能名(主導、創造、規範、脆弱、暗示、動員、無視、証明)→[p.16](#)
- ・【サブタイプ】活性(接触)、不活性→[p.20](#)

情報要素(≠mbtiの心的機能)

- Ti(内向論理:構造・定義)

物事の体系的な枠組みや原理を明確にしようとする働き

内的整合性や論理構造の美しさを重視し、「理屈に合うか」で判断する

- Te(外向論理:成果・効率)

現実における事実や実用性に基づいて判断する機能

成果、データ、方法論の有効性を重んじ、実利を優先して考える

- Fi(内向倫理:内的価値・関係性)

人間関係の距離感や内的な好悪を繊細に感じ取る機能

「誰とどんな関係であるか」「相手の内心をどう感じるか」が判断基準

- Fe(外向倫理:感情の表出・場の空気)

感情の表現や場の雰囲気を読む力に長け、空気を操作する機能

相手の気分や集団の雰囲気を読み取り、それに応じて感情を動かす。

情報要素(≠mbtiの心的機能)

- Ni(内向直観:時間の流れ・意味の核)

時間の流れや因果をとらえ、未来の展開や本質を洞察する機能
過去・現在・未来を一本の線で結び、背後にある意味を探る

- Ne(外向直観:可能性・アイデアの拡散)

目の前の対象から多様な可能性やアイデアを見出す働き
連想や創造力に富み、あらゆる方向に思考を広げていく

- Si(内向感覚:身体感覚・快適さの記憶)

過去の感覚記憶や身体的な快・不快に基づいた評価を行う機能
心地よいリズムや安心できる環境を整えることを重視する

- Se(外向感覚:現実の制圧・物理的影响力)

今この瞬間の物理的な現実や力関係をとらえる機能
行動力や支配力を重視し、状況をコントロールしようとする

価値機能、非価値機能

	Te-LSE (不活性)	Si-LSE (活性・接触)
価値	第一機能：Te 4次元（高）	第二機能：Si 3次元（高）
非価値	第四機能：Ni 1次元（低）	第三機能：Fe 2次元（低）
価値	第六機能：Ne 2次元（低）	第五機能：Fi 1次元（低）
非価値	第七機能：Ti 3次元（高）	第八機能：Se 4次元（高）

・青の部分が価値機能

人のタイプの基礎を構成するもの(第1機能、第2機能)

その基礎を補完するプロセス(第5機能、第6機能)

人は皆、これらの機能に基づいて情報を処理したり、自分と同じ機能を重視する他の人々との温かい交流を持つとする

尊重する機能が共通していればしているほど、その2つのタイプ間の一般的な相性が増す

・白の部分が非価値機能

第3機能、第4機能、第7機能と第8機能

人の好みに反する残りの4つの機能。人はこれらの機能の使用を控えようとする

これらの機能を、私たちは普段極力抑えている

しかし、どうしてもそれを使わなければならない状況では、自分自身に不満や苦悩を生じる傾向がある

自我、超自我、超イド、イドブロック

	Te-LSE (不活性)	Si-LSE (活性・接触)	
価値	第一機能：Te 4次元（高）	第二機能：Si 3次元（高）	自我：強い・意識的
非価値	第四機能：Ni 1次元（低）	第三機能：Fe 2次元（低）	超自我：弱い・意識的
価値	第六機能：Ne 2次元（低）	第五機能：Fi 1次元（低）	超イド：弱い・無意識的
非価値	第七機能：Ti 3次元（高）	第八機能：Se 4次元（高）	イド：強い・無意識的

【自我】第1機能と第2機能

自分の視点・価値観・アイデンティティに強く結びついており、自然体で使いやすく疲れにくい領域

この領域の情報は瞬時に認識・言語化でき、自信をもって発言・議論できるため、他人からも「わかりやすい性格」として認識されやすくなる

問題が起きた際、つい自我ブロックの観点から指摘・介入しようとし、「黙って従う」ことには強い抵抗がある

【超自我】第3機能と第4機能

超自我ブロックは自我ブロックを補助する役割を持ち、自由で自発的には使いにくく、目的に応じて限定的に用いられる

この機能に周囲から過剰な期待や圧力がかかると、苦痛・罪悪感・無力感に陥ることがあり、時に神経症的反応を引き起こす

超自我ブロックは抽象的・内面的に扱われやすく、新しい情報や状況に対して柔軟に対応しにくいという性質がある

自我、超自我、超イド、イドブロック

【超イド】第5機能と第6機能

超イドブロックは、支援されることで安心を得られ、活動はレクリエーション的に楽しみやすい領域

人は不足感を覚えると超イドに頼りがちだが、使い方が未熟で効果は限定的
安心できる補完タイプの存在によって、超イドを自由に表現できるようになる

	Te-LSE (不活性)	Si-LSE (活性・接触)	
価値	第一機能：Te 4次元（高）	第二機能：Si 3次元（高）	自我：強い・意識的
非価値	第四機能：Ni 1次元（低）	第三機能：Fe 2次元（低）	超自我：弱い・意識的
価値	第六機能：Ne 2次元（低）	第五機能：Fi 1次元（低）	超イド：弱い・無意識的
非価値	第七機能：Ti 3次元（高）	第八機能：Se 4次元（高）	イド：強い・無意識的

【イド】第7機能と第8機能

イドブロックは、比較的単純で、少し退屈で無意味なエクササイズのようなものであり、スキルを磨くには適した分野ではあるものの、あまり集中する価値のないものだと感じられる

次元(1~4次元)

(ざっくり)低次元は苦手、高次元は得意

	Te-LSE (不活性)	Si-LSE (活性・接触)
価値	第一機能：Te 4次元 (高)	第二機能：Si 3次元 (高)
非価値	第四機能：Ni 1次元 (低)	第三機能：Fe 2次元 (低)
価値	第六機能：Ne 2次元 (低)	第五機能：Fi 1次元 (低)
非価値	第七機能：Ti 3次元 (高)	第八機能：Se 4次元 (高)

• 1次元(低次元)【経験】

自分の失敗経験からしか学べず、どんな説明であっても、それを受け入れて消化することができない

• 2次元(低次元)【経験・規範】

社会的規範や基準を吸収し、それらに従って行動することができる

• 3次元(高次元)【経験・規範・状況】

状況をナビゲートし、非標準的な解決策を見つけることができる

• 4次元(高次元)【経験・規範・状況・時間】

人生経験、社会規範、状況の習得に加えて、時間指向があり、想像上の問題を解決したり、時代の先を行くことができる機能である

8つの機能【主導①】【創造②】

第一機能：主導	第二機能：創造
第四機能：脆弱	第三機能：規範
第六機能：動員	第五機能：暗示
第七機能：無視	第八機能：証明

・主導(第1機能)

主導機能は最も集中的に情報を扱う領域であり、そこからの発言や行動には強い自信と説得力が伴う個人の核となる価値観や自然なスタイルを受け入れてくれる環境が、主導機能の発達と成長を促す
主導機能は内的な満足感をもたらす一方で、使いすぎると虚無感に陥ることがあり、他者に価値観を投影しやすい傾向もある

双対関係では、一方の主導機能が他方の暗示機能にぴったり合うため、深い相互補完と理解が生まれやすくなる

・創造(第2機能)

創造機能は主導機能を社会的・対人的に応用する役割を持ち、交流や実用を通じて自己表現を助ける
主導機能ほど重視されず、必要に応じて柔軟に使われるため、スイッチのように関心がオンオフしやすい
他人の問題を解決する際は創造機能を媒介にしつつも、実際の判断やアプローチは主導機能に基づいて行われる

創造機能への批判には敏感に反応しやすく、またこの機能を主導機能のように扱う他者には違和感や苛立ちを覚えることがある

8つの機能【規範③】【脆弱④】

第一機能：主導	第二機能：創造
第四機能：脆弱	第三機能：規範
第六機能：動員	第五機能：暗示
第七機能：無視	第八機能：証明

・規範(第3)機能

規範機能は主導機能と対立的な性質を持ち、同時に活用されにくいため、自覺的な努力が必要な「弱点」として認識されやすい

この機能は社会的適応やバランスの調整に使われるが、持続的な運用は難しく、散発的な対応にとどまりやすい

規範機能への批判には敏感に反応しがちで、本人は内心すでにその未熟さを自覚しており、改善しようとしていることが多い

自己成長のプロセスでは、規範機能と超自我ブロックの開発が中心課題となり、これにより柔軟な環境適応が可能になる

・脆弱(第4)機能

脆弱機能は理解や扱いが難しく、不意に痛みやフラストレーションを引き起こしやすい「最小抵抗点」とされる

人はこの機能を無意識に避けたり過小評価したりする傾向があり、必要な場面でもうまく活用できないことが多い

脆弱機能に関する批判や期待には非常に敏感で、自ら責任を持つとせず、他の機能で代替しようとすると

双対タイプの支援があると、脆弱機能に対する恐れが和らぎ、安心してその領域に向き合うことが可能になる

8つの機能【暗示⑤】【動員⑥】

第一機能：主導	第二機能：創造
第四機能：脆弱	第三機能：規範
第六機能：動員	第五機能：暗示
第七機能：無視	第八機能：証明

• 暗示(第5)機能

暗示機能は主導機能を自然に補完する領域で、圧迫感なく受け入れやすい性質を持つ。

この機能からの情報は安心感や娛樂性があり、日常的に与えられると心地よさを感じる
自力で扱うのは疲れやすく、他者からのサポートにより最大限の効果を発揮する

暗示機能は、自我の深い願望を満たす鍵となり、自己理解と充足感を助ける役割を果たす

• 動員(第6)機能

動員機能は補助的な役割を持ち、使うと感謝されやすいが、使いすぎると不快感や飽きを招くことがある

暗示機能より扱いやすいものの、使用は散発的で安定せず、未熟な印象を与えることもある
この機能はしばしば暗示機能を支援する目的で使われ、過度な関心や無関心の両極端に振れがち

本人にとっては生活に有用だが人生の中心には据えられない、あくまでサブ的な価値を持つ領域

8つの機能【無視⑦】【証明⑧】

第一機能：主導	第二機能：創造
第四機能：脆弱	第三機能：規範
第六機能：動員	第五機能：暗示
第七機能：無視	第八機能：証明

• 無視(第7)機能

無視機能は主導機能と対立する視点を持ち、基本的には使われず無視される傾向にある
他者に使い方を教えられると「すでに理解した上で選んでいない」と感じ、不快に思うことがある
普段は抑制されているものの、必要な場面では短時間だけ機能し、裏では意外と頻繁に使われている

無視機能の使用はストレスよりも退屈感をもたらし、意識的には重要視されないながらも補助的に活用される

• 証明(第8)機能

証明機能は創造機能を支える役割を持ち、しばしば冗談や皮肉として使われるが、高度な理解を伴っている

普段は目立たないが、バックグラウンドで頻繁に使われ、外界との接触における重要な補助機能

双対タイプの脆弱機能と同じ情報要素を持ち、その繊細さに配慮しながら自然に支援できる能力を備えている

散発的な使用ながら世界観の形成に深く関わり、自身の信念や価値観を裏付ける支柱として機能する

【サブタイプ】活性(接触)・不活性

	Te-LSE (不活性)	Si-LSE (活性・接触)
価値	第一機能：Te 4次元（高）	第二機能：Si 3次元（高）
非価値	第四機能：Ni 1次元（低）	第三機能：Fe 2次元（低）
価値	第六機能：Ne 2次元（低）	第五機能：Fi 1次元（低）
非価値	第七機能：Ti 3次元（高）	第八機能：Se 4次元（高）

16タイプそれぞれに接触サブタイプと不活性サブタイプの2種類のサブタイプがありえるため、合計すると16×2の32種類に分類できる

【LSEの場合】

- ・不活性サブタイプ(Te-LSE)

不活性機能(左側)(第1機能、第4機能、第6機能、第7機能)の強化に対応している

人は自分の第1機能、第4機能、第6機能、第7機能では、他者からの指導を求めない傾向がある。この4機能が強調される不活性サブタイプの場合、そうした姿勢がより強調されることになる(そのタイプらしさが強調される)

- ・活性(接触)サブタイプ(Si-LSE)

接触機能(右側)(第2機能、第3機能、第5機能、第8機能)の強化に対応している

第1機能、第4機能、第6機能、第7機能は良くも悪くも目立たなくなる(そのタイプらしさが緩和される)

第2機能、第3機能、第5機能、第8機能は、進んで環境に接触し、環境から新しい経験を得て統合・改善していく機能である

④ クアドラ(aクアドラ)

尊重する機能: Ne,Si,Fe,Ti

- ILE(ENTp)
- SEI(ISFp)
- ESE(ESFj)
- LII(INTj)

- 知的な議論や理論を好み、論理と価値観に基づいた行動を大切にする
- 感情表現は明るく、気配りや贈り物を通じて愛情を示し、気楽な関係を求める
- アルファクアドラのグループは、役割分担と協力を重視し、権力的な構造を持たない
- 好奇心旺盛で、専門的でなくとも日常的に学ぶ姿勢を持ち、実用的な知識を重んじる
- 調和とつながりを大切にし、競争よりも温かく協力的な社会を理想とする

アルファクアドラコンプレックス

- ①発言の自由が奪われることへの強い恐れ
- ②議論や会話への情熱的な参加と、発言の遮断への拒否感
- ③秘密主義に対する不信感

④ クアドラ(βクアドラ)

尊重する機能: Ti, Fe, Ni, Se

- SLE(ESTp)
- IEI(INFp)
- EIE(ENFj)
- LSI(ISTj)

- ベータクアドラは、秩序と階層を重んじ、強いリーダーシップと集団意識を重視する
- 現実的な観察力と分析力に優れ、競争的状況では戦術的に立ち回る自信がある
- 感情表現は情熱的で、集団の一体感や共通理念に深く共鳴する
- 革命や危機といった劇的な社会変化に力を発揮し、規律と集中管理で効率を追求する
- 個人よりも全体の利益を優先し、異質な価値観には反発しがちで、統一や国粹主義的傾向が見られる

ベータクアドラコンプレックス

- ①社会的地位や影響力を失い、下層に甘んじることへの強い恐怖
- ②弱者やアウトカーストとして排除されることへの自己認識や不安
- ③階層的秩序の維持と競争による自己守護

④ クアドラ(＼クアドラ)

尊重する機能: Te, Fi, Se, Ni

- SEE(ESFp)
- ILI(INTp)
- LIE(ENTj)
- ESI(ISFj)

- 倫理観が強く、信頼関係には忠実で、感情的な集団活動にはあまり関心を持たない
- 対立を避けずに率直に意見を述べ、実質的な絆や激しい情熱を重んじる傾向がある
- ガンマクアドラの社会は、個人主義と自由市場を基盤とし、国家の関与は最小限
- 多様性や競争を尊重しつつ、社会的流動性と活力を保ちながら成熟した消費社会を形成する

ガンマクアドラコンプレックス

- ①自らの創造的自己実現や行動の自由が制限されることへの恐怖
- ②自分の能力・努力が正当に評価されない状況への絶望感
- ③制約や縛り、抑圧への反発的行動

④ クアドラ(△クアドラ)

尊重する機能: Te, Fi, Ne, Si

- IEE(ENFp)
- SLI(ISTp)
- LSE(ESTj)
- EII(INFj)

- 穏やかで実践的な性格を持ち、生産性や心地よさを大切にしながら自己成長を目指す
- 感情表現は控えめで、強引な態度や情熱的な押しつけには距離を置く
- ロマンスでは快適さと実用性を重視し、楽しく穏やかな関係を理想とする
- デルタクアドラは地域の自立や共同体での資源共有を重視し、画一的な中央支配を避ける
- 実力主義と協力を軸に、倫理観と調和を大切にした平和的な社会を目指す

デルタクアドラコンプレックス

- ①創造的な可能性を抑圧され、能力や計画が評価・実現されないことへの恐れ
- ②他者による批判や介入、嫉妬から来る足かせへの嫌悪
- ③自己改善、自分への努力をやめることの恥

⑤認知スタイル(因果決定論的)

因果的決定論的

(CD) : ILE, LSI, SEE, EII

因果的決定論的認知スタイルは、物事を原因と結果の連鎖で捉え、論理的・体系的な思考を重視するスタイル

「なぜ」「その結果」などの因果関係を軸に、要素を分解・分析して問題を構造的に理解しようとする

冷静で計画的に行動し、感情よりも証拠やデータに基づいた判断を好む

複雑な問題解決や科学・技術領域に適性がある一方、感情や直感を軽視しがちで柔軟性に欠ける場合も

ストレス時には論理の破綻に不安を感じ、再び枠組みを再構築しようとする傾向がある

- | | | | |
|-------------|-------------|-------------|-------------|
| • ILE(ENTp) | • SLE(ESTp) | • SEE(ESFp) | • IEE(ENFp) |
| • SEI(ISFp) | • IEI(INFp) | • ILI(INTp) | • SLI(ISTp) |
| • ESE(ESFj) | • EIE(ENFj) | • LIE(ENTj) | • LSE(ESTj) |
| • LII(INTj) | • LSI(ISTj) | • ESI(ISFj) | • EII(INFj) |
- α(アルファ) クアドラ β(ベータ) クアドラ γ(ガンマ) クアドラ Δ(デルタ) クアドラ



⑤認知スタイル(弁証法的アルゴリズム的)

- 弁証法的アルゴリズム的
(DA) : SEI, EIE, ILI, LSE

弁証法的アルゴリズム的認知スタイルは、対立や矛盾を統合しながら、柔軟かつ予測的に思考を進める特徴がある

条件分岐や動的バランスを活かし、状況に応じた最適な解を創造的かつ論理的に導き出す

複雑な問題に強く、柔軟性とパターン認識力を武器に多面的な視点で問題解決を行う

一方で、過度の分析や批判的思考により決断の遅れや精神的疲労を招くこともある

科学・技術・戦略分野に高い適性を持ち、変化の多い状況での応用力が際立つ



⑤認知スタイル(ホログラフィック・パノラマ的)

- ホログラフィック・パノラマ的
(HP) : LII, SLE, ESI, IEE

ホログラフィック・パノラマ的認知スタイルは、視点を自由に切り替えながら多角的に全体像を把握する柔軟な思考スタイル

複数の視点を統合し、物事を立体的・視覚的に理解しやすい形で捉える力に優れている

危機や複雑な状況でも本質を見抜き、創造的で迅速な問題解決が可能

一方で、細部を見落としたり、視点の飛躍によって他者に理解されにくいことがある

アートや戦略など、全体構造を活かす分野での応用力が高く、動的環境で特に力を発揮する

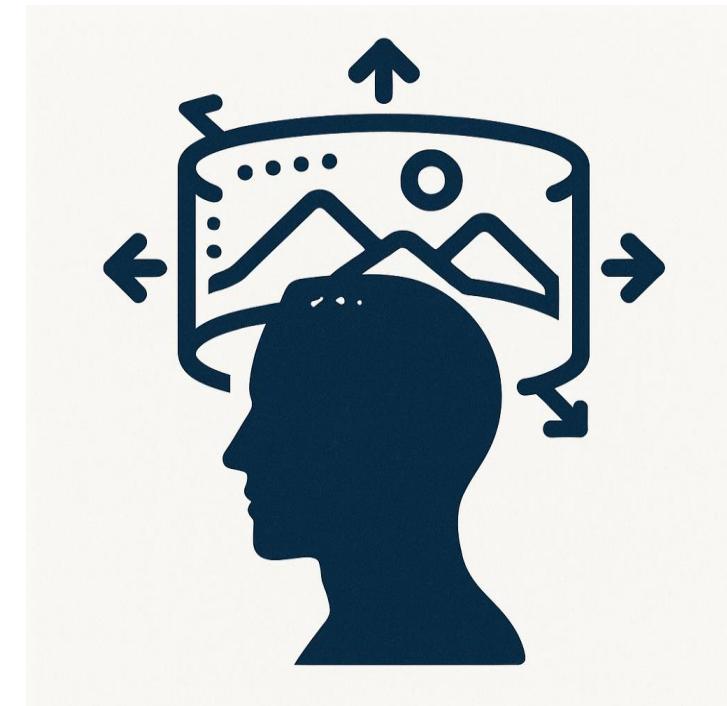
• ILE(ENTp)	• SLE(ESTp)	• SEE(ESFp)	• IEE(ENFp)
• SEI(ISFp)	• IEI(INFp)	• ILI(INTp)	• SLI(ISTp)
• ESE(ESFj)	• EIE(ENFj)	• LIE(ENTj)	• LSE(ESTj)
• LII(INTj)	• LSI(ISTj)	• ESI(ISFj)	• EII(INFj)

α(アルファ) クアドラ

β(ベータ) クアドラ

γ(ガンマ) クアドラ

△(デルタ) クアドラ



⑤認知スタイル(ヴォーティカル・シナジェティクス的)

・ヴォーティカル・シナジェティクス的

(VS) : ESE, IEI, LIE, SLI

ヴォーティカル・シナジェティクス的認知スタイルは、試行錯誤と連鎖反応を通じて自己成長を遂げる、動的で柔軟な思考スタイル

自然界の進化プロセスに似た知的アプローチをとり、直感や実験的行動を通じて最適解を模索する

失敗を恐れず挑戦し続ける姿勢が強みで、創造性や実践力に優れ、複雑な問題解決に適している

一方で、過度な試行や計画性の欠如により、エネルギーの消耗や方向性の喪失といったリスクもある

新技術や革新が求められる分野に高い適性があり、柔軟な対応力と成長志向が武器となる

- | | | | |
|--|--|--|--|
| • ILE(ENTp)
• SEI(ISFp)
• ESE(ESFj)
• LII(INTj) | • SLE(ESTp)
• IEI(INFp)
• EIE(ENFj)
• LSI(ISTj) | • SEE(ESFp)
• ILI(INTp)
• LIE(ENTj)
• ESI(ISFj) | • IEE(ENFp)
• SLI(ISTp)
• LSE(ESTj)
• EII(INFj) |
|--|--|--|--|
- α(アルファ) クアドラ β(ベータ) クアドラ γ(ガンマ) クアドラ Δ(デルタ) クアドラ



⑥ロマンススタイル

・侵略者:SLE,LSI,SEE,ESI

- ・他人への興味は明確で、ためらわずに示す
- ・恋愛では優しさよりも強さと優位性を重視
- ・関係の主導権を失っても弱さは見せない



相性◎

・犠牲者:EIE,IEI,LIE,ILI

- ・自他の関心に確信が持てず、反応を見て探る
- ・わずかに優位な強い相手に惹かれやすい
- ・関係性の変化に敏感で継続的関心を求める

Gulenko提唱のグループ分類
恋愛やセクシャルな面における人ととの相互作用

・保護者:ESE,SEI,LSE,SLI

- ・保護者タイプは穏やかで上品な交流を好む
- ・攻撃的なセクシュアリティには冷めやすい
- ・相手の快適さと健康への配慮を重視



相性◎

・子供:ILE,LII,EII,IEE

- ・美的で非性的な魅力に惹かれやすい
- ・楽しい会話や意外性で関心を引こうとする
- ・自分のニーズを察する相手を高く評価する

⑦【サブタイプ】DCNH

※LSE(N)←この(N)がDCNHサブタイプを表す

サブタイプ	D	ドミナント 接触/完了/接続 Te, Se+Fe	C	クリエイティブ 接触/開始/無視 Ne, Fe+Se	N	ノーマライザー 距離/完了/無視 Ti, Si+Fi	H	ハーモナイザー 距離/開始/接続 Ni, Fi+Si
-------	---	--------------------------------	---	----------------------------------	---	----------------------------------	---	----------------------------------

「強化された2つの機能」と、「追加機能（1機能）」
同じタイプ4人（例：LSE×4人）が集まつたときに、自然に役割分担する傾向から観測される分類

ドミナント：

リーダー役

- ・コミュニケーションを求める（接触）
- ・着手したことを最後までやり遂げようとする傾向、整理整頓を好む傾向（完了）
- ・外部環境の変化に敏感な傾向（接続）

クリエイター：

アイデアを生み出す役

- ・コミュニケーションを求める（接触）
- ・開始する能力、簡単に切り替える能力、行動の無秩序さ（開始）
- ・外部環境の変化を無視する傾向（無視）

ノーマライザー：

仕上げ役

- ・人から距離を置く必要性が高い人（距離）
- ・着手したことを最後までやり遂げようとする傾向、整理整頓を好む傾向（完了）
- ・外部環境の変化を無視する傾向（無視）

ハーモナイザー：

修正や校正をする役

- ・人から距離を置く必要性が高い人（距離）
- ・開始する能力、簡単に切り替える能力、行動の無秩序さ（開始）
- ・外部環境の変化に敏感な傾向（接続）

⑧各タイプ関係性

Malskaya分類	快適度
誘引的	
双対関係	7
活性化関係	5
鏡像関係	3
準双対関係	2
幻影関係	2
要求関係	2
同一関係	1
反発的	
疑似同一関係	-1
共鳴関係	-2
協力関係	-2
監督関係	-2
消滅関係	-3
超自我関係	-5
衝突関係	-7

上(数値大)ほど快適な関係

上三つ(双対関係・活性化関係・鏡像関係)は同じクアドラ

下三つ(消滅関係・超自我関係・衝突関係)は対立クアドラ($\alpha \Leftrightarrow \gamma, \beta \Leftrightarrow \Delta$)のタイプが分類される

例) LSEの場合

同一 LSE	双対 EII	活性化 IEE	鏡像 SLI
共鳴 LIE	準双対 ESI	要求- SEE	監督- ILI
超自我 EIE	消滅 LSI	疑似同一 SLE	衝突 IEI
協力 ESE	幻影 LII	要求+ ILE	監督+ SEI

要求-、監督- : LSEが要求・監督される側。

要求+、監督+ : LSEが要求・監督する側

⑧各タイプ関係性（双対）

最も相性が良いのが「**双対関係**」

参照：[双対関係-From Over the Sea](#)

- ・双対関係は、モデルAにおける相互補完という原則という点から見た場合、理想的に適合しあう関係にあるタイプ同士の関係のこと
- ・このタイプ間は**主導機能**と**暗示機能**がそれぞれ補完しあう関係
- ・双対関係の間では、言葉にならない理解や共感が働きやすく、**衝突や摩擦が少ない**。相手の価値観や方法論が「なるほど」と自然に感じられ、スムーズな意思疎通が可能になる
- ・自分にはない観点やアプローチを相手から学べるため、**自己成長が促される**。互いに刺激し合いながら補完関係を築くため、結果的に両者ともに強化される

